

至：白毛門

午前4時、土合駅を出発。土合橋
付近の登山口を見つけられず、沢
伝いに進む。正規の登山道を使わ
なくても尾根に登ればよいと考え
たが左岸の岸壁で動けなくなり救
助を求めた。

遭難地点



20代男性で登山歴は4年ほど。谷川岳を撮影する目的で、その東側にある白毛門へ登山計画を立てた。午前4時、土合駅を出発。周囲は暗く土合橋付近の登山口を見つけられなかった。遭難者は湯檜曾川と東黒沢を勘違いし沢伝いに進む。したがって、遭難者は「沢の東に白毛門へ向かう尾根があるはずなので、正規の登山道を使わなくても、取り付ける場所から尾根に乗ればよい」と考えた。しかし、実際は東黒沢を歩いていたため、とんでもない場所に進んでしまい救助を要請することになった。（本文参照）

朝4時出発は、暗いため道も分かりづらく、道に迷わないように神経を使う。地図を見れば、大きな沢の分岐（湯曾根川と黒湯沢）の尾根末端から尾根伝いに登るのだから道に迷うはずはないのだが、道迷いはそれを許さない。里山とは違い、大きな山では、「正規の登山道を使わなくても尾根に乗ればよい」と考えることは間違っている。

特に、暗闇での「思い込み」は思わぬ道迷いを生む。自分も肝に銘じたい。